

J-WIP 活動報告

企画担当理事



2024年8月27日、ワシントンDCで働く女性を応援するJ-WIP(※)による第26回目のスピーカーイベントを開催いたしました。

講師はブルッキングス研究所東アジア政策研究センター所長・外交政策上級フェロー・フィリップ・ナイト日本研究チエアを務めるミレヤ・ソリス博士です。夏休みムードが続き、通日も静けさを感じるワシントンDCでしたが、35名の参加者が会場に詰めかけました。

ソリス博士は、2018年に大平正芳記念賞を受賞した『貿易国家のジレンマ: 進化するアジア太平洋秩序における日本とアメリカ』(ブルッキングス出版、2017年)をはじめ、日本に関する複数の書籍を執筆されています。近著『ネットワークパワー 日本の台頭: 『失われた30年』論を超えて』(日本経済新聞出版)では、日本が「インド太平洋」構想のリード等を通して国際的に重大な役割を担う存在として地位を高めるに至った理由などを論じられています。

ソリス博士は、日本の対外経済政策専門家・国際経済学者としてワシントンの政策コミュニティでも有名な方ですが、今回はメキシコで生まれ育った同博士が日本に興味を持ち、学者としてキャリアを築かれた経緯など、いわゆるパーソナル・ジャーニーを語っていただきました。

ソリス博士と日本との出会いは、メキシコの日本語学校入学がきっかけでした。石油産出国として栄えていた1970年代のメキシコには日本企業が多く進出し、それに伴い日本語学校が設立されたそうです。1980年春、大平総理大臣がメキシコを訪問。当時14歳の博士が日本語学校に訪れた大平首相を日本語スピーチで歓迎する機会を得、その体験が博士のキャリアに大きな影響を与えることとなりました。

ソリス博士は、メキシコの名門大学エル・コレヒオ・デ・メキシコへ進学された後、ハーバード大学へフルブライト奨学生として留学。卒業後はアメリカン大学で教鞭を執られた後、ブルッキングス研究所に移籍し、政策研究の道へ進まれました。キャリアを築き上げる中で2人のお子さんを育てられた博士ですが、メキシコで確立している育休制度が、アメリカでは雇用主や交渉次第で内容が変わることに戸惑い、育児とキャリア形成の間でご苦労されたとのことでした。



ソリス博士は、日本の国際的な立場や日米関係の変遷に触れ、自分のキャリアや研究に与えた影響も語られました。また近著で日本が近年、「ネットワークパワー」を駆使し、国際社会でリーダーシップを発揮、アジア太平洋地域の安定に貢献している点にも触れ、日本の「ネットワークパワー」の持続性について会場の参加者と活発な議論を交わしました。当日の議論は、米国大統領選挙、日本の自民党総裁選、世界の女性リーダーに及び、日本研究者のパイプラインなどについても会場の参加者と意見が交わされました。

今回のイベントは、ソリス博士の日本との出会い等を学ぶことで、改めて日米の「人と人のつながり」の重要性を認識する機会にもなりました。

(注)当イベントは原則オフレコでしたが、公表情報を基にソリス博士の承認を得た情報を盛り込んでいます。

※J-WIP(Japanese Women in the Professions in Washington DC): ワシントン地区で働く日本女性へのキャリア育成支援活動。2016年1月から、ワシントン日本商工会として支援。